

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201301		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	グループホーム ワカバまつど		
所在地	千葉県松戸市胡録台284-51		
自己評価作成日	平成31年3月6日	評価結果市町村受理日	令和元年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成31年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「思いやりといたわりの心で接する」ことを大切に、利用者様の声に耳を傾け、良いと思ったことは積極的に取り入れております。また、スタッフの笑顔を大切にという理念のもと、笑顔で接することでご利用者様も自然と笑顔になるよう努めており笑顔が絶えないホームです。その為か、昼間の時間を自室で過ごす方がほとんどおらず、皆様リビングで過ごしておられます。一人ひとりの生活リズムを大切に出来ることは一緒に、やりがいを持ち時間で区切らずその人のペースで暮らして頂くことを大切に、重度化された方でも寝かせっぱなしにせず、食事は皆さまと一緒にリビングで摂ったり天気の良い日は外気浴をして季節を感じてもらえるよう出来ることを探して実践しております。ホーム内行事へのご家族様の参加は多く、地域行事にも積極的に参加し交流に努めております。夏に開催するワカバ祭りは年々近隣の方々のご参加が増えており地域に浸透しております。

「スタッフの笑顔を大切に」「思いやりといたわりの心で接する」という理念は施設内に掲示しており、職員の判断基準ととなっている。職員間のコミュニケーションはよく、意見を言い合える環境であることがうかがえる。外国人職員とのメモのやりとりはひらがなやカタカナで書くなどミスの無いように心がけている。自治会に加入しており、ワカバ祭り(法人のお祭り)を中心に餅つきやハロウィンなど子供も含めた近隣住民の参加も多く、交流の場となっている。近隣住民には災害時の避難などの協力依頼もしている。食事は五感を通して味わうことを大切にしており、盛り付けや彩り、季節に合った食器の使用などの工夫をしている。また、身体拘束等適正化検討委員会への答申を積極的に実施し、常に適正な支援を検討し続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「スタッフの笑顔を大切に」を施設内に数か所掲示して職員全員で共有し実践している。	ホーム理念は施設内に掲示している。「スタッフの笑顔を大切に」「思いやりといたわりの心で接する」という理念は職員に浸透しており、職員が言葉や行動で示していることがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運推進会議・地域で開催される行事(公園清掃・餅つき・避難訓練・ハロウィンなど)に積極的に参加したり、回覧板を届けた際や近隣の方々とお話をしたり話をしてしたりすることを欠かさずすることで地域の一員として交流するよう努めている。	自治会に加入しており公園清掃、餅つき、避難訓練、ワカバ祭り(法人のお祭り)やハロウィンなどを通して地域との交流を図っている。近隣住民がホームを訪れる機会を増やし、ホームへの理解を深めてもらう工夫をしており、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	向かいの小規模多機能事業所・認知症デイサービス事業所と協力して、定期的に認知症カフェを開催して地域の方々に認知症の理解や悩みなどを打ち明けられる機会を設けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、定期的に開催して利用者状況・行事予定報告事項・意見交換をしている。議事録を職員全員で回覧して、議事で上がった内容に関しては、スタッフミーティングにて議題にしてサービス向上に繋げられるようにしている。	運営推進会議は2か月に1回の開催で、自治会長、地域包括支援センター、市内3施設の管理者などが参加している。活動報告の他、事故報告やヒヤリハットも共有している。議事録は利用者家族にも配布している。	ホームと入居者家族とのコミュニケーションは良好であるが、運営推進会議への参加が課題である。家族にとって興味深いテーマを設定し事前に送付するなど工夫をして参加につなげることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、介護相談員が訪問してくださりご入居者様とお話しをして状態や我々では気づかない事などを聞き取りや観察をしてくださいホームでの事柄・様子なども伝え共有している。また、相談員様からの意見も参考にしてサービス向上に反映している。行事開催の案内も伝え参加して頂いている。	管理者は市の窓口と密接に連携をとっており、情報交換をしている。また、市の介護相談員は、毎月1回訪問して入居者と面談しており、その内容はホームと共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じて、身体拘束についての理解を周知している。また、必要に応じて理解を深めるべく職員同士の話し合いの場を設けて意見交換が出来るよう且つ、正しく理解できる環境づくりに努めている。	身体拘束をしない支援を前提としており、転倒防止の観点などで身体拘束が懸念される場面においては、家族の意見も尊重しつつ、身体拘束等適正化検討委員会の定時開催を待たずに、職員間でも話し合い検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、高齢者虐待についての理解を周知している。また、必要に応じて職員同士の話し合いの場を設けて意見交換が出来るようにしている。事業所内での上下関係の風通しを良くするように心掛け、ご入居者様に対するの悩み・不満など一人で抱え込まないよう環境づくりに努めている。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営者がセミナーに参加して、管理者・職員に周知し理解を深め、必要に応じて活用出来る準備をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必ず契約書・重要事項説明書の読み合わせをしてご理解して頂くようにしている。不明な点・疑問点などをお聞きしてその内容をご理解して頂けるまで説明し納得して頂けるようにしている。不安を解消したのちに署名・ご捺印して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様には、日常的にご意見・ご要望をお聞きして、ご家族様には面会時もしくは、お電話でご意見・ご要望をお聞きするように努めている。月1回の介護相談員様も訪問して下さっているため、その際ご意見・ご要望があった場合に記録に残し職員同士で共有してサービス向上に反映していけるよう努めている。	入居者や家族が意見を言いやすい環境を整えるよう努めており、家族には電話で話したり面会時に聞き取るようにしている。まずは聞くことを優先しており、意見については検討して、可能なかぎり実施する方向で取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング(月1回)で提案されたものについては、事業所内で改善できる案件は改善していくようにしている。但し、事業所内では改善が困難な案件については、毎月開催される本社責任者ミーティングにて報告して改善策を講じるようにしている。	スタッフミーティングでは活発な意見交換がなされている。普段から職員同士のコミュニケーションがとれており、意見が言いやすいと思われる。本外部評価の自己評価も職員がそれぞれ記入し、管理者と意見交換するなど職員の参画意識は高く、管理者も職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた出勤体系及び基本給与(時給等)資格手当等また、経験年数に応じた手当支給や保育支援制度・キャリアアップ支援制度などの各種手当・制度を設けて職員が働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は月1回の責任者ミーティングのほか、不定期であるも、事業所に来所して職員とコミュニケーションを図るようにしている。また、新規採用者は研修期間を設定して、面談を通じて力量評価を実施して育成している。尚、担当職員はレクチャーすることによって自身の振り返りにも繋がりが相互でのスキルアップにも反映されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市高齢者グループホーム協議会に入会して管理者は定例会に参加している。そこで交流の場を設けている。また、他グループホームの運営推進会議に参加させて頂き情報共有などの意見交換などをして交流に努めている。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に職員がアセスメントシートを回覧して、状態の把握をしたうえでケアを実施している。また、言動など記録または口頭で情報共有して不安を出来る限り与えず安心していただける支援を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が気軽に質問及び相談など出来るよう我々のほうからお声かけしてお話し出来る雰囲気・環境づくりに努めている。重要な事にかんしては記録に残して職員間でも共有して理解するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の思いや悩みを把握したうえでケアを実施し、職員間で意見を出し合いその思いや悩みに寄り添えるケアを生み出し、まず必要な援助をしていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の習慣や好みを把握して「出来ること」を優先してやっていただくよう努めている。感謝の気持ちを表し、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全員でご家族様が話しやすい環境・雰囲気づくりを心掛けている。また、介護連絡票、電話などでなかなか来所出来ないご家族様とも情報を共有してご本人様を支えていく援助に出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話の中から、また、アセスメントシートを参考にして馴染みの人、馴染みの場所なども把握して外出の計画や馴染みの方の来訪をお願いしたりして、その関係性が途切れないよう意識して援助すように努めている。	定期的に知人や家族の来訪がある。家族などにも協力を依頼し、これまで馴染んできた場所や人との関係が継続できるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が意識して話題づくりの提供をして、協働作業の場を設けて孤立しないよう一人一人に支援していくよう努めている。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も不定期ではあるものの電話をして、悩み・相談などお役に立てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話やノンバーバルコミュニケーションを大切にして、連絡ノート・記録などをもとにして、職員間で共有及び連携を図り、ケア方法について検討している。	日々の関わりの中で意向を把握するように心がけている。コミュニケーションが難しい場合は、「はい」「いいえ」と答えやすい言葉かけから、少しずつ利用者の思いを引き出すようにしている。得た情報は連絡ノートなどで職員間で共有し支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中からやアセスメントシートも活用し、また、ご家族様からの情報も参考にしご本人様の背景や生活歴について理解しより良いサービスに繋げられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノート、日々の申し送りにて、状態の変化などを日々把握して支援・援助に反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療連携を図りながら現状の問題に目を向けて、職員間で共有出来るように話し合いを設けて計画に反映している。ご家族様にも報告・連絡・相談してご意見を頂戴している。	利用者の心身の状況、利用者、家族の意向を踏まえ、担当者会議で医師や看護師の意見も聞いて介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、状況の変化や満足度などを評価し、職員からの意見を反映させて、半年に1度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート等紙面にて「気づき」を共有してケア計画に反映している。ミーティングや担当者会議を必要に応じて開催して、意思を共有して計画→実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の習慣や好みを把握して「出来ること」を優先して行っていただくよう努めていき、感謝の気持ちを表し、信頼関係を築けるよう努めている。心身状態に合わせてご家族様とも相談しながら現状に即した生活スタイルを確立して、サービス提供するよう努めている。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催して、地域の方々から情報や意見を頂戴して、役立てていけるよう努めている。また、夏祭り(24TVチャリティ基金)では、近隣の方々が大勢参加してくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医が定期往診として月2回診てくださっている。また、電話相談・臨時往診にも対応して下さり適切な医療を受けれるように支援している。	利用者は月2回ホーム協力医の往診を受けている。以前からのかかりつけ医を希望する場合は家族の協力を得ながら対応している。利用者のバイタルチェックは毎日実施しており、体調の変化の気づきなどは看護師とも共有しながら、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師が定期的にホームに来て、ご入居者様の様子を伝え、相談・指導していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の医師から入院先へ情報提供していただき、入院先の病院と情報交換しながら早期退院に向けて協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、入居契約時に説明させていただいている。また、体調の変化が生じた場合にも再度、話し合いをしている。過去にはご家族様が訪問看護を依頼し、医療行為を実施するケースもあった。	入居時に終末期に向けた対応指針に沿って、利用者、家族の意向を確認している。医療的処置が必要になった場合はホームでの対応は難しく、入院となることも説明している。食事が摂れなくなった等の段階で、主治医、看護師も同席して再度、家族と話し合う場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1F事務所に消防署と直結した回線がある。緊急時に迅速に対応出来るように年2回消防訓練を実施している。また、緊急時の対応の研修も行いスタッフの実践力が身につくよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施。1回は消防署に来ていただき指導していただいている。定期的に防災用品を点検して、いつでも使用出来るように準備している。	年に2回の避難訓練は火災、地震想定で利用者也参加して避難場所までの移動経路を確認している。1回は消防署も立会い、夜間帯での安全な移動方法についての助言をもらっている。水や食料、発電機を準備しており、近隣住民には災害時の協力について依頼している。	

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様のご様子を常に観察して、その時に合った対応を心掛けている。	人生の先輩として尊重し、利用者の言葉を否定しないで受け入れるように心がけている。言葉かけなどで気になる場合はその場で注意したり、リーダーなどの対応を見ながら学んでもらうように伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様とコミュニケーションを図りながら、ご入居者様がお話しになった言動などを記録などに残してその思いを職員間で共有して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合った生活リズムを尊重して、出来る限りのご要望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った身だしなみやおしゃれを支援・声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様と一緒に考えたり、食事を一緒に調理したり、準備や後片付けを行っている。	献立は利用者と一緒に考えて決めている。利用者は出汁用の煮干や野菜などの下拵え、食器を拭くなどできる作業に参加している。食器も季節に合わせたものを使用しており、五感を通して食事を味わうことができるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作成時には前後を確認して食事のバランスを考慮するようにしている。水分量は記録に残し、1日に最低1000cc以上飲んでいただけるよう声掛けして援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方は見守って、出来ない方には介助している。1週間に1度歯科往診があり、口腔内の確認・治療をしていただき、清潔保持に努めている。		

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のトイレ使用の頻度が様々なので声掛けをして見守りしている。必ず排尿・排便の確認をするようにしている。	日中、夜間とも声かけにてトイレ誘導している。ストレッチ運動やテレビ体操など、日々の生活の中で体を動かす機会を設け、血流をよくするために足のマッサージを行うなど、日常生活動作の維持向上にむけた支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因究明を考え、消化の良い食材を提供している。水分を多く摂って頂いたり体操・歩行練習などを声掛けして出来る限り予防になるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する際には、血圧・体温を計測して顔色や体の様子をチェックしてご本人に数値や体調などを伝える。入浴中も常に声を掛け身体に何か変化がないかチェックしながら個々に合ったペースで気分良い時間を過ごして頂くよう支援・援助している。	週2回の入浴前にはバイタルを測り、利用者の状態を把握している。利用者は歌を唄ったり、職員と会話を楽しんだり、ゆっくり湯船につかるなど、思い思いに入浴を楽しんでいる。また、夕方には足浴なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースが違う為、タイミングを図り休んで頂くよう心掛けている。夜間に関してはトイレで起きた際など必ず「おやすみなさい」など声掛けをして安心していただけるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服用している薬の目的や副作用の確認、服用する個人の薬かどうかの確認を目で確認及び声を出して他スタッフに確認してもらいご本人様にも声掛けして服薬していただいている。尚、薬の変更に関しても日々確認して誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い・食器拭きなどのお手伝いを出来る範囲でして頂き「私もやりたい」と意欲をだしていただけるよう努めている。終わった後には必ず「ありがとうございます」と声を掛けて達成感を感じてもらえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはウッドデッキで日光浴・外気浴をして頂いている。出来る限り戸外への外出・散歩などの支援を行いたいと考えている。	利用者個別の要望に応じて対応しており、コンビニなどに買い物に行ったり、近隣を散歩したりしている。また、お祭りなど地域の行事にも参加している。ホーム周辺は坂が多く、車いす利用者にとって日常的な散歩は難しい状況がある。	車いすの利用者の外出支援として、車で出かける計画をしている。今後も利用者にとって楽しみとなるような、外出支援の取り組みが期待される。

【評価結果】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が金庫に保管して管理している。必要に応じて本人にお渡ししたり、買い物に同行して支払いを体験してもらうなどの支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人にご本人様が電話をしたいと希望がある際には電話をつないでいる。また、手紙も発送したり届いたものはお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除・消毒を行い清潔保持に努めている。室内の証明についても明るすぎず暗すぎず刺激のないよう配慮するよう努めている。月ごとにリビングの貼物を替えて季節感を感じてもらえるよう心掛けている。	清潔感があり、季節を感じることができるような共有空間づくりに努めている。利用者は日中リビングで過ごすことも多く、温度、湿度も利用者の様子を見ながら適切な管理に努めている。トイレには夏の日差しを防ぐために、簾をかけるなど工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に椅子の他、ソファを用意して好みに過ごせるようにしている。また、気の合う同士で話せるように座席にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が安心して過ごせるように使い慣れたものやお好みの写真などを飾ったりして居心地の良い環境づくりに努めている。	利用者の今まで暮らしていた部屋に近い空間になるよう配慮している。居室には使い慣れた家具のほか、カラオケを持ち込み居室でカラオケを楽しんでいる利用者もいる。室温や照明などは利用者の希望に応じて調整して居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で出来る限り自立した生活が送れるように廊下・トイレ・浴室などのプライベート空間には、手すりやナースコールを設置している。通路など歩行の妨げにならぬよう不要物は置かないようにしている。		

【評価結果】